

令和 6 年度 政策討論会 第 3 分科会（第 4 回）要点記録

・日時 令和 6 年 10 月 15 日（火）

・場所 第 1 委員会室

・会議時間 10：00～10：49

・出席者

中井 良介（座長）

井舎 英生（副座長）

藤原 豊和

海老原 友子

倉田 賢一郎

殿本 マリ子

南 加代子

友永 修（座長、副座長以下は議席番号順）

・議事内容

○「岸和田市讃歌」の現況について理事者（企画課）より説明を聞いた。

・「讃歌」は、昭和 47 年（1972 年）、市制 50 周年式典用として、作詞寺岡さん、作曲新井利昌さんにより作られた。

・コロナ前までは、毎年 7 月末のマドカ合唱祭のオープニング曲として歌われていたが、この 5 年間は中断している。

・あまり普及していない。

●友永議員

・今回は、「岸和田市讃歌」について、企画課から讃歌作成の経緯や時代背景、普及などについてご説明をいただいた。

・市制 50 周年記念事業の一つとして作成されたことがわかった。当時の時代背景として、万博や沖縄返還、本市においては、庁舎新館の建設など高度経済成長の中であり、経済的にも豊かな時代であったとのことである。

・同時期に岸和田音頭が作成され、レコードが出されたが、その B 面に録音されたのが「岸和田市讃歌」である。作成後、積極的な普及活動はなされておらず、現在は、年一回の合唱祭などで歌われる程度となっている。

（岸和田市讃歌と岸和田音頭の音源を聴かせていただいた）

・歌詞やメロディなど良いのではないかと率直に感じた。その上で、岸和田市民の皆さんが、郷土愛を育んでいくために、岸和田市讃歌を耳にする機会が多々あれば、年齢を重ねるごとに愛着がわき、郷土への誇りにも繋がっていくのではないかと考えます。強制するのではなく、知らず知らずのうちに耳に残っているということが良いと

思いました。

●南議員

・卒業しても口ずさめる「校歌」は、その地域風景や子ども達が成長されていく姿を想い、つくられている。機会あるごとに歌っていくので自然と覚え、懐かしい母校の姿が浮かぶようだ。

・岸和田市讃歌も同様、歌詞をみれば本市全体の風景に、市民の功績を讃え、更なる前進と歴史をともに築こうというメッセージと受け止められるものであることから、市が主催する行事等でも曲を流すなど活用してみて、まずは認知を図っていけばと思う。

●海老原議員

・市制 50 周年記念に際し作られたもので、詞は市民に公募したが、曲は有名人に作曲していただき、バブル期の好景気で市財政も豊かであったことにより、かなりの予算をかけていたものであった。

・同時に、「岸和田音頭」も作られていたことに驚いた。これは聞き覚えのあるものであった。水前寺清子の歌で、レコードもあり、聞かせていただいた。予算をつぎ込んだのに、今では知る人も少なく、市に息付いていないことを残念に思った。

・「岸和田市讃歌」と同じように、本市には、色々な「〇〇宣言」などがあると思うが、実際、目にしたことも、聞いた事もない。そういったものを掘り起こすことで、本市の姿勢・歴史的見地などを再確認できるのではないか。本分科会が「岸和田市讃歌」だけに特化するのは困難と思うが、今から広げる意味や可能性は分からないが。

●倉田議員

・貝塚市で防災行政無線のテスト放送の際に市歌が使われているというのはとても面白いと思います。

・防災行政無線から流れる音楽が何の曲なのか興味を持つ方も多いと思います。

●藤原議員

・岸和田市歌の普及を本討論会の目標にするのかどうか、理事者の説明を踏まえて、改めて検討してみてもよいのではないか。

●殿本議員

・他市で歌われている市の歌ですが、横浜市しか知りません。小さい子供から高齢者の方まで歌えることをテレビで見ました。

- ・横浜市民がこの歌を歌うのは愛着を持ち自分の市がとてもすばらしいという感情持っているということです。

- ・本市も小中学校の音楽の時間に練習し式典などいろいろな行事がある時に歌えば岸和田市への愛着を共有できるのではと思います。

- ・市制 50 周年の時に有名な作曲家、作詞家の方々に作っていただいた初めて市の讃歌というものができたのですからこれを歌い継いでいきたいと思います。そしてこれが文化の継承につながるのではないのでしょうか。

- ・レコードの A 面は岸和田音頭となっていることからこの音頭の踊りも岸和田唯一のものとして岸和田市讃歌とともに継承したいものです。

●井舎議員

- ・議員が来年 3 月のマドカ合唱祭で歌うのも良いと思います。

●中井議員

- ・他市の事例を調べるのも良いでしょう。

以上